

第5学年 社会科 学習指導案

1. 小単元名『生活環境を守る人々』

(教科書：『小学社会5下』p.48～59／学習指導要領：内容（1）ウ）

2. 小単元の目標

徳島市の新町川の水質汚濁について調べ、公害が住民の健康や生活を脅かしてきたことに気づき、被害の様子や原因、公害防止への人々の努力や願いを捉えるとともに、環境が生活や産業と密接に関連していることや、人々の努力によって環境が改善されてきたことを理解できるようにする。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
公害が国民に及ぼす影響や、公害防止への人々の取り組みについて、被害や原因、人々の願いや努力に関心を持ち、意欲的に調べたり考えたりしようとしている。	環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることや、環境問題と自分自身や自分の生活とのかかわりについて、具体的な事実をもとに考え、自分なりの考えと根拠をもって適切な判断をしようとしている。	徳島市の新町川の水質汚濁とその改善に取り組んだ人々を具体的に調べたり、地図やインターネット等の資料を活用して調べたりして、公害と国民生活とのかかわりを分かりやすくまとめている。	人々に有害な公害とそれを改善している人々の努力に気づき、公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さや、公害防止のためには国民一人一人の協力が必要であることを理解している。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

本学級の児童は、米づくりや自動車づくりなどの産業学習で、環境を守ることの大切さについて学んでいるが、公害が国民生活に深刻な影響を及ぼした事実や、身近な事例としての環境問題に触れたことがない。そこで、本小単元の導入で、自分たちが住む徳島市の中心部を流れる新町川が、昔、水質汚濁がひどかった時期があるという事実を示し、切実な問題意識をもたせることで、追究意欲を高めたい。また、実際に水質汚濁の改善に努力した人にインタビューするなどの具体的活動を取り入れるとともに、一地域だけでなく全国の事例も調べるようにして、公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さを、実感的に捉えられるようにすることが重要だと考える。

(2) 教材について

本小単元は、大単元「国土の自然とともに生きる」の中に位置付けられる。人々が国土の自然環境に適応しながら生活や産業を営むとともに、国土の環境を守り、健康な生活を維持・向上させているということから、国土の環境が人々の生活や産業と密接に関連していることを考えさせるのが大き

なねらいである。したがって、公害問題や環境保全を単に学習するのではなく、公害の問題性とその改善に取り組んだ具体的な事例を取り上げ、より自分事として考えさせていく必要があると考える。

そこで、徳島市民の憩いの場にもなり、美しい水際公園を中心にクルージングも楽しまれている新町川が、約 60 年前には水質汚濁で魚もすめない状態となっていた事実を提示し、現状との違いから問題意識を醸成したうえで、改善に取り組んだ「新町川を守る会」や市・県の願いと努力を具体的に追究することとした。この身近な事例を通して、国土の環境を守り、健康な生活を維持・向上させているということが自分事として捉えられると考えた。なお、それで終えるのではなく、国土全体へと視野を広げ、様々な取り組みを共感的に捉えるとともに、地球規模的にも、自分たちはどのように考え行動していくべきか、考えられるようにしたい。

(3) 指導上の工夫・留意点

本小単元では、自分事として捉え考えることが大切であると考えるので、より実感的・共感的に追究できるように、水質汚濁の改善に努力した方に登場してもらい、その具体的な努力と強い願いを直接見聞きするように工夫した。また、公害の原因となった当時の工場や市民生活を批判するだけという展開にならないよう、それらもよりよい生活を求めた結果であることをおさえ、まさに国土の環境が人々の生活や産業と密接に関連しているのだということに着目させたい。

さらに、全国的な事例や地球規模での環境保全の取り組み等については、インターネットを活用して多面的・多角的に情報収集し、整理・分析できるように工夫した。

5. 小単元の指導計画（総時数 8 時間）

時	ねらい	○学習活動 ・ 内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① (学習問題をつくる)	当時の新聞記事や写真等の資料から、新町川の水質の変化に着目して、自分なりの疑問をもとにした学習問題をつくとともに、調べていこうとする意欲をもつ。	○70 年前、新町川で子どもたちが泳いでいる写真を見て、清流だった時代があったことに気づく。 ○50 年前、水質汚濁が大きな問題となっている新聞記事を見て、なぜそんなに汚れしまったのか疑問をもつ。 ○現在、水際公園で遊ぶ子どもたちやクルージングしている様子の写真を見て、その変化からも疑問をもつ。 ○疑問を整理し、学習問題をつくる。 なぜ新町川の水が汚れ、どのようにきれいになったのだろうか。 ○グループごとに整理して、学級全体で、これから何を調べていくか話し合う。 ・教科書、副読本、パンフレット等 ・市役所や「新町川を守る会」の方から	◎写真集『徳島市の今昔』から取り出した写真（清流を思わせるもの） ◎新聞記事（水質汚濁が問題となっているもの） ◎現在の市勢要覧から取り出した写真（水際公園で市民が遊んでいるもの） ◇各自が素直に感じた疑問を全員に出させる。 ◆各種資料から水質環境に関心をもち、自分なりの問題意識をもとに、学習への意欲をもっている。 (関・意・態／発言)

② (予想・計画)	学習問題に即して、どうして水質の汚濁がひどくなったのか、どのように改善したのかを、自分なりに予想して、学級全体でこれから調べる計画を立てる。	○前時につくった学習問題を確認し、自分なりの予想を立てる。 ○個々の予想をグループごとに話し合い、何について調べていかななくてはならないか、ポイントを整理する。 ・新町川のもともとの姿 ・水質汚濁の原因と被害の様子 ・改善した人々とその方法 ・住民の人たちの思い など ○学級全体で調べていかなければならないことを話し合い、これからの学習計画を立てる。 ・どんな資料が必要か ・誰に聞けばいいのか ・どのような順序で調べていくか	◎教科書・副読本・パンフレット等 ◆学習問題に即して、水質が汚れた理由や改善された様子について自分なりに予想するとともに、調べていくための計画を立てている。 (関・意・態／発言・ノート)
③ (調べる)	学習問題に即して自分なりに立てた予想をもとに、各種資料を活用して調べ、何が分かって、何が分からないのかを明確にする。	○立てられた学習計画にしたがって、自分なりの予想をもとにしながら、まず各自で各種資料を活用して調べていく。 ・家庭学習である程度調べておく。 ・家庭学習の成果を補足する。 ○何が分かって、何がまだ分からないのかをグループごとに出し合う。 ・個人の整理→グループの整理 (K J 法を活用して) ・グループで整理した結果をタブレットに記入し、まとめる。 ・各グループのまとめをタブレットから電子黒板に送信し、全体で確認する。 ・大切だと思うことを中心にして話し合う。 ○次時に、「新町川を守る会」の方と市役所の方にインタビューすることを知り、誰に何を聞くか質問シートを作成する。 ・市役所の方に ・「新町川を守る会」の方に	◎教科書・副読本・パンフレット等 ◎写真集『徳島市の今昔』から取り出した写真(清流を思わせるもの) ◎新聞記事(水質汚濁が問題となっているもの) ◎現在の市勢要覧から取り出した写真(水際公園で市民が遊んでいるもの) ◇シンキングツール(K J 法)を活用して、調べたことを整理させる。 ◇電子黒板やタブレットを活用して、整理したことを可視化する。 ◆自分たちなりの予想をもとにして、各種の資料を活用しながら調査活動をしている。 (技／活動・発言・ノート)

④ (調べる)	前時に明確になった、解決したい事項を中心に、「新町川を守る会」の方や市役所の方に取材する。	○ゲストティーチャーの方の紹介を聞き、自分たちの質問シートを再度確認する。 ・グループごとでの確認 ○市役所の方の説明を聞き、説明内容についての質疑をする。 ・市の施策として →水質汚濁を改善するための方法 →水と緑が豊かな徳島市に ○「新町川を守る会」の方の説明を聞き、説明内容についての質疑をする。 ・活動のメンバー ・活動の目的、内容 ・メンバーたちの願いと思い ○質問シートの中で、まだ解決できていないことについて質疑をする。	◎市役所の方が持参した様々な資料 ◎副読本『水と緑の徳島市』 ◎「新町川を守る会」の方が持参した様々な資料 ◇自分たちが調べたことと比較しながら、説明をしっかりと聞かせる。 ◇双方の説明を関連づけながら、聞かせる。 ◇疑問を残さないように、質疑をさせる。 ◆自分たちが作成した質問シートを、ゲストティーチャーとの質疑を通して完成させている。 (技／発言・ノート・質問シート)
⑤ (確かめる)	調べたことをもとにして、新町川を汚した原因や、水質汚濁が人々の暮らしに及ぼした影響の深刻さについて理解する。	○新町川を汚した原因は何だったのか、これまで調べたことをもとに話し合う。 ・上流の工場からの廃水 →使用済みの廃水をそのまま流す ・市民の生活排水 →70年前の生活排水と違うのは、化学洗剤、下水の未整備等 ○新町川の水質汚濁が人々の暮らしに与えた影響について話し合う。 ・川底からガスが発生するぐらい。 ・ひどい臭い。 ・魚もすめない。 ・川に向かった生活から、川を背にした生活に。 ○本時を振り返って、確かめられたことを話し合ってまとめる。 ・人々が便利な生活することばかり考えていたのでは、大変なことになってしまう。結局、自分たちの生活にも大きな悪い影響が及んでくる。	◎副読本『徳島市の水』 ◎副読本『水と緑の徳島市』 ◎新聞記事（水質汚濁が問題となっているもの） ◇みんなで確かめられたことをもとにして、自分なりにその問題性をまとめさせる。 ◇誰が悪いという責任追及にならないように留意させる。 ◆新町川を汚した原因や、水質汚濁が人々の暮らしに及ぼした影響の深刻さについて実感的に理解している。 (知・理／発言・ノート)

⑥ (確かめる)	深刻な水質汚濁を改善していった人々の具体的な取り組みや努力、思いについて理解する。	○前時に確かめた新町川の水質汚濁が今は改善されていることを確認し、インタビューした方々の説明や質疑の結果をもとに話し合う。 ・自分たちの考えも付け加える。 ○改善に取り組んだ人々の思いについて、話し合う。 ・改善してこなかったら、どうなるか。 ○「新町川を守る会」及び市役所の方の映像で確かめる。 ・自分のためではなく、みんなのため、未来のために取り組んでいった。 ○本時を振り返って、確かめられたことをまとめる。	◆汚染された新町川をよみがえらせた人々の努力や思いについて、共感的に理解している。 (知・理／発言・ノート)
⑦ (ひろげる)	新町川のような深刻な公害について、全国的な事例とその改善の取り組みについてインターネット等を活用して調べ、その共通点について理解する。	○水俣病の映像を見て、新町川以外にも、水質汚濁などの公害問題が全国で発生していることを知り、教科書等を使って調べる。 ・四大公害病について →水俣病、新潟水俣病、四日市ぜんそく、イタイイタイ病 ・公害問題について調べるポイント →原因・被害・改善・防止 ○インターネットでも調べて、公害問題が全国各地で発生しており、多くの人々がその改善に取り組んできたことを知る。 ・個人で、自分の関心から調べる。 ・学級全体で整理する。 ○全国の様々な事例を比較して、共通点について話し合う。 ・公害は、国民生活の便利さの陰で発生している。 ・公害は発生すると、その国民生活を脅かす重大な問題である。 ・公害をなくすには、また防ぐためには、大変な努力がいる。 ・公害は、大切な自然をこわしていて、その結果が人々にも戻ってくる。	◎水俣病の映像 ◎教科書・資料集 ◎インターネット ◇全国に視野を広げる際、広げすぎて資料が整理できないほどにならないよう、留意させる。 ◇たくさんの事例があることに気づかせる。 ◆新町川だけでなく、全国的にも様々な公害問題が発生していることが分かり、その意味について、共通点を整理することによって、自分たちなりに考えている。 (思・判・表／発言・ノート)

⑧ (深める) 【本時】	様々な公害問題を繰り返さないために、何が必要か、行政・住民・企業等の立場で考える中で、自分なりの考えをまとめる。	○前時にまとめた全国の公害問題の共通点をもとにして、公害を発生させないことの大切さを理解する。 ・公害問題から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ ○公害の防止及び改善のために、様々な立場からどうあるべきかを考え、話し合う。 ・工場などの企業として ・国や県や市町村の行政として ・地域の住民として ○教科書5下 p.56の図を見て、話し合う。 ・公害問題は、自然環境をこわすことになり、自分たち人間もその一部なので、自分たちにも大きな影響を与えてしまうことになる。 ○話し合いの結果をもとに、自分なりの考えをまとめ、これからのあるべき行動を意思決定する。	◎これまでのノートや資料 ◎教科書5下 p.56の図(拡大して提示) ◇一つの立場だけでなく、様々な立場を想定し、それぞれの立場での考えをもたせる。 ◇地球の自然環境の中で、人間のくらしが成り立っていることに気づかせ、まとめの考えに生かせるようにする。 ◆全国で発生した様々な公害問題の共通点から、その意味を考え、この問題を改善・防止していくためには、社会全体でどうしていくべきかを考えている。 (思・判・表／発言・ノート)
--------------------	--	---	--

6. 本時の指導(第8時)

(1) 本時のねらい

様々な公害問題を繰り返さないために、何が必要か、行政・住民・企業等の立場で考える中で、自分なりの考えをまとめる。

(2) 本時の展開

時配	○学習活動 T: 発問 C: 児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
10	○前時にまとめた全国の公害問題の共通点をもとにして、公害を発生させないことの大切さを理解する。 T: 前の時間に、全国の公害問題について考え、その共通点を整理しましたが、どのような共通点がありましたか。 C: 公害は、国民生活の便利さの陰で発生している。 C: 公害は発生すると、国民生活を脅かす重大な問題である。 C: 公害をなくすには、また防ぐためには、大変な努力がいる。 T: その共通点をもとにして、みんなの考えを話し合いましょう。	◎前時にまとめたシート, ノート, 資料 ◇似た内容の気づきは一つにまとめ、できるだけ簡潔に示すよう助言する。 ◇グループで整理したあと、学級全体でまとめていく見通しをもたせておく。 ◎共通点を整理した板書

	C：公害問題はない方がいい。 C：発生した公害は、改善するためにみんなで取り組んでいくことが大切だ。 C：一度発生した公害問題は、解決するために大変な努力と時間が必要になるので、発生を防ぐことにも力を入れなくてはならない。 C：何でも小さい問題の時に、解決しなくてはならない。 C：改善するためにも、防止するためにも、一人ではできない。みんなで取り組んでいくべきだ。	◇問題の改善と予防の両面から、具体的に発言させる。 ◇他の意見に、自分の意見をつないでいくようにさせる。
25	○公害の防止及び改善のために、様々な立場から、どうあるべきかを考え、話し合う。 T：みんなで取り組んでいくことが大切だということですが、「みんな」とは具体的に誰のことでしょうか。 C：公害を発生させている人。 C：工場や企業。 C：だったら、生活排水を出した市民も。 C：法律を守らせる国や県や市町村の人。 C：「新町川を守る会」のように、民間の人も。 T：いろいろな立場があるようですが、一つ一つの立場を考えていきましょうか。 C：それぞれの立場を考えなくてはいけないと思う。 C：でも全部はできない。 C：グループで分担して、考えてみればいい。 T：では、こうしましょう。1・2班は企業の立場から、3・4班は行政の立場から、5・6班は市民や民間団体の立場から、考えていきましょう。 企業・行政・市民のそれぞれの立場で、公害問題の改善と予防について考えよう。 T：各グループでそれぞれの立場の考え方を話し合ってください。まとまったら、カードに書いて、黒板のそれぞれの立場のところに貼ってください。 (各グループでの話し合い) T：それでは、それぞれの立場ごとに発表してください。 C：企業の立場です。企業だからもうけることが大切だけど、公害を発生させたら、よけいにお金を使ってしまうことになるし、市民からも批判されてしまう。 C：同じ企業の立場ですが、社会の一員として、公害問題を	◇「新町川を守る会」のような民間団体も、市民と同じ立場に位置付ける。 ◇活動時間の制限があるので、効率的に分担させる。 ◇机間指導をしていき、自分たちの担当する立場に立脚して考えさせる。 ◎企業・行政・市民をベン図で表した板書 ◇カードには、できるだけ短い言葉で書かせ、全体的に見ることができるようにする。

	防止する義務がある。環境にも配慮していきたい。 C: 行政の立場です。せっかくある法律が守られているかどうかをチェックしていきたい。 C: 同じ行政の立場です。この問題の大切さについて、みんなに知ってもらう努力もしていきたい。 C: 市民の立場です。市民も自分たちでできることをしていかななくてはならない。 C: 同じ市民の立場です。その上で、企業や行政も監視していかななくてはならない。だめなら追及していく。決して他人事ではないという意識をもつこと。	
10	○教科書 5 下 p.56 の図を見て、話し合う。 T: ところで、この図を見てください。水環境を例にしても、自然の中で循環しているのが分かります。これまで学習してきた公害問題と結びつけて、思ったことを発表してください。 C: 水を汚すことは、このよい循環をこわしてしまうことになり、結局は自分たちの生活もこわしてしまうことになる。だからこそ、防止しなくてはならないんだ。 C: 公害問題は、自然環境をこわすことになり、自分たち人間もその一部なので、自分たちにも大きな影響を与えてしまうことになる。 C: 「持続可能な社会」という言葉を聞いたことがある。このことを言っていたのかな。 ○話し合いの結果をもとに、自分なりの考えをまとめ、これからのあるべき行動を意思決定する。 T: だいたい意見が出たようですが、最後に、あなたたちはこれからどうしていくのですか。この学習のまとめとして、2 分間でノートにまとめてください。 C: 自然環境の中で、人間のくらしが成り立っていることを考えると、環境にやさしい生活をしていきたい。 C: 身近な生活の中でも、ゴミを少なくするとか、省エネルギーを心がけるとか、できることから実行していきたい。 C: 一人一人がこの問題を自分事として捉えて、それぞれで取り組んでいかななくてはならない。 C: どの立場であっても、同じ目的のためにがんばることが、環境を守り、自分たちの生活も守ることになる。	◎教科書 5 下 p.56 の図(デジタル教科書を活用し、電子黒板に拡大提示) ◇地球の自然環境の中で、人間のくらしが成り立っていることに気づかせ、まとめの考えに生かせるようにする。 ◇最後は、自分なりに考えたことを実行していくという前提で、意志決定をさせる。 ◆全国で発生した様々な公害問題の共通点から、その意味を考え、この問題を改善・防止していくためには、社会全体でどうしていくべきかを考えている。 (思・判・表／発言・ノート)